

子どもの事故予防かみしばい

「どっちがよい」&vol.2」を使用されるみなさまへ

この紙芝居は平成二十四年度 神奈川県「消費者力アップ！県民提案事業」の委託を受け、子どもの事故予防を推進する非営利団体「Safety Kids いずみ」が企画・制作したものです。Safety Kids いずみでは平成二十三年度にも本事業の委託を受け、子どもの事故予防かみしばい「どっちがよい」&vol.2」を制作しました。今回の「どっちがよい」&vol.2」はその続編になります。

「どっちがよい」&vol.2」では「窒息」に関する事故をテーマにしたお話と「住宅内」で起きやすい事故をテーマにしたお話、それぞれ三話を取り上げました。子どもたち自身に「安全な行動はどちらか」「なぜ安全なのか」「なぜ危険なのか」を考えてもらうために「どっちがよい？」と問いかける形にしたことは前回と同じです。子どもたち自身に危険について知ってもらい、自ら予防的な行動を取れるようになってもらいたいと考えています。

「窒息」は子どもの命にかかわる重大な事態を引き起こしますが、その危険の芽はありふれた日常の中にひそんでいます。喉に食べ物やおもちゃを詰まらせる事例はよく知られているところですが、フードやひもといった衣服の一部が窒息を引き起こす事例や、狭いところに入り込んで酸素欠乏になる事例もあります。

また、「住宅内」（家庭内）は誰もがほっと安心する場所ですが、実は多くの事故が発生しています。特に子どもにとって危険な要因がたくさんあることを知っていただきたいと思っています。

この「どっちがよい」&vol.2」を各ご家庭はじめ、地域の子育て支援の場、保育園・幼稚園等でご活用いただき、事故予防の重要性や予防のための知識を学び、対処のためのスキルを身につけていただきたいと引き続き願っています。

主要参考文献

『田中先生の安全教室 絵で見て学ぶ安全教育』田中哲郎 日本小児医事出版社
『乳幼児の事故予防 保育者のためのリスクマネジメント』掛札逸美 ぎょうせい
『データで納得 子育て世代の安心・安全住宅』住まいの安全を考える会 彰国社
指導・監修（敬称略）

山中 龍宏（緑園こどもクリニック院長）

産業技術総合研究所 デジタルヒューマン工学研究センター 傷害予防工学研究チーム長）

八藤後 猛（日本大学理工学部建築学科准教授）

長谷川 祐子（アメリカ海軍日本管区司令部地域統合消防隊 広報官）

稲坂 恵（日本セーフティプロモーション学会理事・理学療法士）

イラスト

久保田 修康

平成二十五年二月